



■グリニッチ便り■

Japanese Gospel Church of Greenwich

No. 153, 2011年2月号

グリニッチ福音キリスト教会

雪かきと隣の家主・・・

牧師 立石尚志

●なぜか数日間、郵便屋さんが郵便を持って行ってくれた形跡がなく郵便も届かない。御存知、

アメリカの郵便ポストは横についている旗を立てておくと、郵便を持って行ってくれるのだが、旗は立ったまま。原因はどうも、わが家のポストの回りの雪かきができていなかった所為らしい。よく見れば無理もない。普通ならポストの前まで郵便車で乗りつけ（郵便車は特別に右ハンドルである！）車から降りる事なく、ポストの中身を抜き取り、郵便を入れてくれるはずのところ、わが家のポストの前にはどっかり雪があり、降りなければ配達ができない状態になっていた。

●わがアパートではここ2年間、家主の方で専門の人を回して雪かきをしてくれるようになったのだが、今年はあまりの雪の多さにポストの周りまで行き届いていなかった。それだけではなく、お隣で雪かきした雪も大量にわが家のポストの前まで寄せられている。こういう状況で家主に頼んでもいつ人を回してくれるか分からないので運動不足解消も兼ねて、自分でこの処理にあたることにした。

●長靴とオーバーズボンをはき、枝打ち用ノコギリとシャベルをもって雪かきを始めた。昔、冬山登山で身に付けた技術であるが、雪は、少々固まっているならば、ノコギリで一辺、30センチくらい大きさのサイコロ状に切り分けて行くと非常に扱いやすく、面白いように作業がはかどる。ポストの後ろは自分の背よりも高く雪が積み上がって行く。しかし、わが家の前だけでは郵便車がアクセスできるようにならない。郵便屋さんのためな

らと思ひ、隣の家の雪にも取りかかり、隣家で既に雪かきした雪の上に雪ブロックを積んでいった。これなら文句もなかり、と思ったのであるが、考えが甘かった・・・。

●午後、隣の家主が雪かきシャベルをつけたトラックでガガガガ、と雪をどかしにやって来た。作業が終わると、ピンポンとわが家のドアにその家主が立っている。垣根の剪定などで手伝ってもらったこともあり、以前から顔見知りでもあったが、もともと楽しい人ではない。しかも、この時はすごい剣幕で「何でお前の所の雪を俺の所に置くんだ！」とこれでもか、というほどの悪い言葉を混ぜながらまくし立てている。隣の住人が見ていて訴えたのかも知れない。こちらは雪かきの理由を言い、そちらの雪をサービスでどけたまでだ、と説明しても聞く耳持たず、ひとしきり悪口雑言放った後、ぶつぶつ言いながら帰って行った。こちらは久々に生々しい悪口を浴び、心は穏やかざる状況になった。

●翌朝、目が覚めるか覚めないうちから頭の中で隣の家主とやり合っている。赦せん！という思いでいっぱいである。言葉のハンデのため、その時反論できなかった分、ああ言えばよかった、こう言えばよかった、と次々議論が湧いて来る。もう牧師であることなど関係ない・・・！ところが、それでも朝のお務め、つまり聖書を読み、お祈りをする「デボーション」の時間がやってくる。神さまの前に出るにあたり、そのまま良いはずがない。つい先日ローマ書2:21「どうして、人を教えながら、自分自身を教えないのですか。」という箇所をグループで学んだばかりであり、「クリスチャンにとり「赦し」は必須科目である。」と他のグループで説教したばかりである。「ああ主よ、助けてください。」という心境だった。

●数時間後、窓から隣の家主が隣にやって来ているのが見えた。何はともあれ、会いに行

こう。箴言15:1「柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす。」箴言25:15「忍耐強く説けば、首領も納得する。柔らかな舌は骨を砕く。」とある通りだ。出て行くと、勿論、相手は、何をしに来たというような顔をしていたが、こちら昨日の悪口雑言でいやな思いをしたこと、しかし、何はともあれ（そちらの雪とは言え）かってに雪をそちらに積んだことは悪かった、今まで良い関係で来たのだから、壊すつもりはない、と話した。すると相手は「俺はとにかく切れてたんだ。何せ、こっちはこの天気であちこち雪かきして回らなきゃいけなくて、もう辟易しているんだ。」と、ひとしきり天候を呪い、愚痴をこぼした。確かに彼の立場に立てば雪かきで余計にお金も労力もかかっているのだろう。とにかく、その場は、和解の握手をして別れることができ、感謝だった。

●一昨日、レターサイズ（ほぼA4）の封筒がポストに入っていたが、その表に「Clear Snow & Ice!（雪と氷を除去せよ）」と命令調でなぐり書きしてあった。郵便局員にして見れば、まだ雪かき不十分だったのだ。みんな怒っている！モッシャー通りの他のポストを見たって、わが家よりも除雪ができていないところもあるじゃないか！とも思ったが、幸い気温もちょっと高い。ポストの前の雪は踏み固められ氷と化しており、すでに7~10cmの厚みになっている。重たい鉄のハンマーと岩石を割るためのタガネ、シャベルで氷をたたき割り続けること30分、ポストの前はアスファルトにもどった。終わりよければすべてよし。神さま、感謝します。今日は右腕が痛い。■



「私は教会が嫌いでした・・・教会と私の霊的成長」 R. H. 姉

2010年9月26日 転入に際しての証し

●私は教会が嫌いでした。と言うか、教会にいく必要性を長いこと見出せませんでした。教会の歴史を見ただけでも、輝かしいものだけではなくどちらかと言えば目を覆いたくなるような悲劇も多々あります。神様ではなく人間が運営している教会に私は魅力を感じられなかったのです。自分と神様さえしっかりとつながっていれば、教会へは自分が行きたいと思ったときだけ行けばよいと思っていました。それが長い年月を経て、私の偏見と無知のゆえに自分が勝手に出していた結論であることがわかったのです。

●私が洗礼を受けたのはニューヨークから来たから5年ほど経ってからです。大学3年生としてニューヨークの学校に編入し、卒業後、大学院で修士課程を終え、1年ほど仕事をしていました。自分の人生がなんとなく宙ぶらりんの感じで、何かに属したい、そしてもっといい人間になりたいと、そんな漠然とした願いを持っていたときに私のユダヤ人の同

僚が、ある教会を紹介してくれました。牧師から1冊の本を紹介され、その本を購入し読み始めました。題名も内容さえもはっきり覚えていませんが、神様とイエス様のことが書いてあったのは確かです。牧師と本の内容を少し話し合った後イエス様を通して神様を信じますか？と聞かれて、いとも簡単に「はい」と言っていました。その1ヶ月後に洗礼式があり額にお水を掛けられて私のクリスチャンとしての人生が始まったのです。

●イエス様が私と一緒にいてくださる。神様はいつも私を見守っていてくださると感じていましたが、わたしのクリスチャンとしての認識はそこで止まっていた。私の信仰は、あくまでも私と神様、プライベートな関係でそこに教会や、ましてや教会の人々との交わりなどとても考えられませんでした。教会に行かなかった訳ではありません。礼拝にも何度となく参加して、「God be with you!」などと言ってはいましたが、いつもお客さんで

あり教会を出たらもうすべて忘れていました。

●それから結婚、男の子3人の出産、子育てと傍から見れば幸せに見える人生を送っていましたが、そこには誰でもが通る人生の苦難がありました。不安、憤り、怒り、あせり、憎しみ、絶望感、いらいら、悲しみ、戸惑い、その他いろいろ・・・クリスチャンでありながらそのころの私は自己啓発の本を読んだり、新興宗教的な教えを書いた本に頼ったり、自力でやはり頑張らねばと自分を叱咤激励していました。聖書も読んでいましたがやはり今思えば理解は全然していませんでした。

●2004年、私は今までの生活に本当に愛想がつき、それまで夫婦で経営していたお店を主人に押し付け、私は自分の仕事を見つけました。それを前後して、主人が教会に行き始めたのです。はじめは教会の牧師による教養講座への出席、その後の礼拝には僕は行かないよと言いながら・・・でも1年後には礼拝にも参加するようになり、瞬く間に教会に溶け込



んでいきました。私の主人は「自分は無神論者だ」と豪語していた人です。神様を自分と同等に考えていた人です。これだけでも奇跡だと思っていたその矢先、今度は洗礼を受けると言い始めました。その洗礼のための準備の学びを毎週1回家で行いたいといってきました。“いいんじゃない。”とそっけなく言ったのを覚えています。彼がどこまで本気なのか図りかねていたからです。

●でもその洗礼のための学びが私のクリスチャンとしての成長の始まりになったのです。人間の本当の罪とは、神様に背を向けている態度、自分に頼って生きる生き方であると知りました。私は口ではクリスチャンと言いながら長いこと罪を犯し続けていたことになりました。人間の罪の性質は、一朝一夕でなくなるものではなく、徐々にその性質の洋服を脱ぎ、イエス様の衣を日々着ていくことだとも教わりました。聖霊の存在そのものもよく理解できておらず、まして聖霊との交わりがどのようになされるものかも知りませんでした。日本語で聖書を読み始め、こんな言い方、日本語にはないなどと文句をつけながらも、一生懸命理解しようと毎日聖書を読むのが夜寝る前の私の小さな儀式になりました。

●それでも教会へ行くのは、特別な行事や、愛餐会のときだけに限られていました。神様とつながっている私に教会は必要ないとまだかたくなに思っていたのです。それでも神様は忍耐強く私を見守ってくださり、私の時を待っていてくださいました。2007年の11月に、牧師夫人からクリスマス・クワイヤーのアルトの人数が足りないから誰か手伝ってくれないかと言う依頼がありました。これは歌を歌うことの好きな私への神様からの働きかけだとそのときに思いました。それから毎週、礼拝と練習に参加し、クリスマス礼拝も終わったところで、さてどうしよう、急に教会に行かなくなるのも悪いかしらなどと思いつつ、それからは毎日曜日、礼拝出席を続けることになりました。その年、主人が中川健一先生の“日本人へ贈る聖書物語”4巻をク

リスマスプレゼントとして贈ってくれたのも、聖書の理解を深める大きな助けになり感謝しています。教会設置の図書を読み漁り始めたのもこのころだったと記憶しています。

●我が家の週一回の集いも洗礼準備クラスから聖書研究へと成長し、ほかの教会の方たちも参加するようになりました。その学びの中で、イエス様が教会に集いなさい、と私たちに語りかけているのを知りました。これは神様からの命令であり、私が教会を必要としているか、いないかは関係がなく、教会で集うことにより、人に仕えると言うことを学び、人が中心でなく、神様を真ん中に囲んでの人のお付き合いの仕方を学ぶことが出来ると知りました。教会の歴史のむごい部分も、人間の無知、誤解、傲慢さから来ているものであると今の私は理解しています。

●クリスチャンとして成長し始める中、私に試練の時期も訪れました。息子の頭の怪我でインテンシブ・ケア。ユニットでお祈りをしながら過ごした1夜。健康保険が無効になっていると言われて、そんなはずはないと必死になって保険会社と交渉をした2週間。メカニックの人たちと友達になってしまうほど、我が家のポンコツ車が次から次へと故障していた時期、等々。でも今までの私と違っていたのは、いつも神様にお祈りをして助けてくださいと叫んでいたことです。私は第1ペテロの5章7節「あなた方の思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。」をコンピューターの前に張り、毎日読み続けていました。神様に助けを求めながら過ごしているうちに不思議な形で物事が解決して行くのを少しずつ経験し、本当に神様は祈りに答えてくださる方なのだを知るようになりました。聖書に“神は生きている。”という御言葉が何回も出てきますが、まさに生きておられるからこそ私たちの祈りを聞かれ、それに答えてくださるのだと遅まきながらわかってきたのです。

●わたしのクリスチャンとしての第2の霊的成長へのチャレンジは2008年のファミリーキャンプのときです。霊的に満たされて涙をいやと言うほど流しながら私は中川健一先生のメッセージに少し戸惑いを感じていました。“行って福音を伝えなさい。”こんな私

にそんなことが出来るのだろうか？ 私が神様とつながっていればほかの人がどうであっても私ごとやかく言うことではないのではないかと、などと頭の中でつぶやいていました。そしてその翌年、教会でリック ウォーレンの“40日の旅”をみんなで学びました。その究極のメッセージも福音を伝えることでした。そして「とりなしの祈り」、人のために祈ると言うことの大切さもこの頃になってようやく分かってきました。

●そして私の福音を伝える努力が少しずつ始まりました。日本にいる私の両親に、中川先生の聖書物語を送って読んでね。と言うところからスタートしました。はじめの1年は“積読”になっていて、やっぱりだめかなとあきらめはじめた頃、読んでいるよと電話で言ってくれたときは、やったあ！と思わず叫びはしませんでした。とても嬉しかったのを覚えています。最近では“天国の人”を読みつつ、“なんとなく自分の体が痛く感じるくらいすごい経験だね。”と言っていました。来月帰国したときに、いろいろイエス様の話が出来ると楽しみにしています。今年の6月に、私の従兄弟はがんで亡くなりました。でも私は悲しくありません。彼がイエス様を信じて救われてから息を引き取ったからです。少なからず、そのお手伝いが出来た私は、彼との御国での再会を楽しみにしています。

●話が前後しますが、2009年の3人の子供たちへのクリスマスプレゼントは、革張りの聖書でした。イエス様のことをもっと知ってほしい。神様とさえしっかりつながっていればほかに必要なものはないと私自身確信したからです。でもこの確信へ導いてくれたのは、神様と牧師と教会に集う方たちです。

●私たちにはこの世を去るまで自分たちに与えられた使命を果たす義務があります。想像もつかないほどの恵みを神様から受けている私たちにとってそれは当然のことと思います。感謝しつつ、喜びを持って、祈りとともに神様に仕えることの素晴らしさをすべての人に伝えたいと私は願っています。私の力は微々たる物ですが、後ろ盾になっている神様の限りのない力を持ってしたら何事も必ず成し遂げられると信じています。つたない証ですが、最後まで聞いていただいて感謝します。■

※ 下記以外にも週の間、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。

■ 2月～4月の集い・行事予定 ■

【定例集い】

- ★ 日曜礼拝/10:00~11:30
メッセージ等は託児室でモニターを通して聞く事もできます。
グループ会/12:15 まで
大人、子供それぞれのクラスに分かれます

【各種集い】

- ★ スタンフォード 聖書を読む会
毎週水曜 1:15pm 場所：井上宅
- ★ ハートフォード 聖書を読む会
月三回木曜 9:30am 山田宅
月一回木曜 10:30am テイラー宅
月三木曜 7:00pm チョイ宅/男性聖研

- ★ ハリソン 聖書を読む会
隔週火曜 10:00am 場所：ハリソン長老教会
- ★ マウントキスコ 聖書を読む会
毎週水曜 8:00pm 場所：平野宅
- ★ ハリソン・メンズ・バイブル・フェローシップ
第1, 2, 4 木曜日 8:30pm 場所：荒木宅

● 森繁 昇ゴスペルコンサート 2/26(土) 午後 4:00～ (託児あり)

● イースター・ファミリー・セレブレーション 4/24(日) 午後 1:00～3:00

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》教会 TEL/FAX (203) 531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203) 531-1609, e-mail: jgclmi@verizon.net

